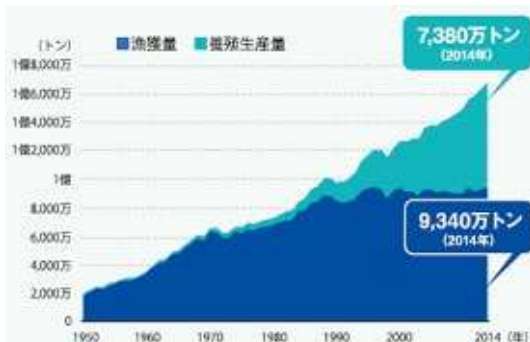




●石川県では毎年アマエビの資源量調査をしています。金沢沖の水深 375m～500 mの海域で、今後の漁獲量を左右する**小型のアマエビの分布量を調査**しています。今年のアマエビ漁は豊漁だった 2015 年のレベルには至らないものの引き続き高水準を維持しています。適正サイズに成長するまで 4～5 年かかります。現在漁獲されているものは 2014 年頃生まれということになります。**今後も好漁が続く**ものと思われま。

イクラ動向

●前年はイクラが高値で消費が低迷。輸入物など代替品に切り替える外食などが目立ちました。業界では末端を無視した異常な価格形成だったことを反省しつつ、**今年は抑えた価格になりそう**です。しかし、アラスカ産、ロシア産と輸入物の搬入量も価格に影響します。アメリカ国内の需要も増加傾向にあるそうので日本の搬入量は減少するという見方も。国内のサケの漁次第です。



魚介類の生産 増加継続

●世界の魚介類の生産量は 2030 年までに 2 億トン、現状よりも 2 割増加する見込みです。世界の水産物の生産量は増加の一途を辿って来ました。生産量の主役だった天然魚については 1990 年後半から頭打ちとなり、その代わりに養殖魚が全体の底上げを担っています。今後も**世界的な魚介類の需要の高まり**が予想され、更なる**養殖産業による安定供給**が求められます。



入荷状況 & 商品情報

10月
甘エビ
ブリ
ガスエビ
ササカレイ
メギス
ミズウオ
アマダイ
メッキダイ
ノドグロ
ベニズワイガニ



●今年の**底引き網漁**は天候にこそ左右されますが今のところ潤沢に入荷しています。**小振りのノドグロがお買い得**です。ハタハタ、メギスも小振り。カレイ類は高値。アマエビはお買い得です。地物の白身（ハタ、アラなど）は品薄で高値推移しています。10月からは東北地方（秋田、山形、新潟）でズワイガニ漁が解禁です。鍋商材、アンコウは10月になると高値に。タラは入荷はあるもののまだまだ小型です。

●商品価格等は各担当者にお問い合わせください。